

小學讀方作文教授掛圖使用法

K

K121.8

3.1

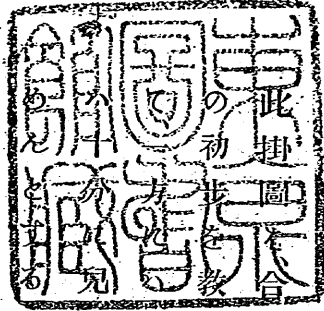
小學讀方作文教授掛圖使用法

135  
861

K/21.8  
3,1

No 20440

小學讀方作文教授掛圖使用法



此掛圖は、初級教授を施す小學にて、讀方及作文の初歩を教へん爲めに、とて編製せるものにして、専ら教師の教授の手を省き、一方に児童をして、讀書作文の脩鍊を爲さしむるなり。この二の目的を達せんが爲めに、左の如き特別なる仕組を用ひたり。第一、此掛圖毎課新出の文字を、小學よみかき教授書と同一にして、習字讀方及作文の三科を互に相聯絡

せしめたり。此仕組にて、兒童豫め、よみかき教授書某課の文字を習熟記得せば、其課と相當れる此掛圖讀方科の章句ハ、大抵自ら讀み得べきが故に、これに下讀みの時間を與ふるときは、其間教師ハ、よく他級他課の教授若しくハ監督を爲し得べきを以て、大に教授力を省くハ勿論、時間に餘裕を生じて、更に教授上の紛雜を見る患なうる可し。第二、此掛圖の外、別にこれを書籍と爲して兒童に携帶せしめず、以て常に讀方作文の課ハ、大抵兒童の自力に任す可からむ。此仕組

によりて、兒童ハ、日々珍しき掛圖を見て、自ら讀み自ら記述し得る快樂を感じ、此快樂を取らんとする必要より、先づ心を込めて、よみかき教授書の文字を習得し、讀方作文に於ても、自ら奮て文義を理會し、自ら思念する所を正しく記述せんことを勉むるより、自然注意力、理會力、記憶力等を練磨し、兼て後來諸般の事に必要なる自爲の氣象をも養ひ得べきなり。されば此掛圖を使用するものハ、右の二つの仕組をよく、玩味して、共に徒らに屬せざる様注意すべし。

此掛圖ハ、全部六十一圖より成り、各圖上下二段に分ち、上段ハ、讀方の科に充て、下段ハ、作文の科にあつ。又全部、課を分つこと百四十二にして、初めハ、各圖を三課づゝに分ち、一課一日の業に充て、末に到りて、一圖に一課を收めて、之を分たず。然れども、大抵其文を三段となし、一段一日の業に充つ。

此掛圖、讀方の科に充つる辭句ハ、極めて平易にして、最も兒童の言語に近きものを選び、但し其排置、概ね文法上の順序に従ひ、其句の短きも

のを先きとし、漸々長きものに及ぼすと雖も、必しも一二課の間に於て、これに拘泥せることなし。是れ其辭句を選ぶや、皆兒童常用の語に採れるを以て、僅に一二課の間に難易の差を覺えざればなり。

作文の科に於てハ、初めハ、専ら圖畫を掲げ、其事物の名稱を書取らしむる設をなし、稍進むに従ひて、作例を示し、題或ハ問を設けて、填字法より徐々歩を進むべうかしむ。今其大体を言はんは、第一課より第二十一課までハ、兒童已知の文字

にて書き取り得べき物、一品づゝを畫き、第二十  
 二課より第二十七課までハ、同じく二品を別々  
 に畫き、第二十八課より第七十七課までハ、大抵  
 二品の物の組合ひたるを舉ぐ、但し間、一品なる  
 所も交れど、その書取るべきことの長うるべ  
 ければあり、第七十八課に於てハ、「イチハノスマメ  
 を。」ハノスマメと書き替へしめ、これを例とし  
 て、「ハノツパメ」と書取らせんとす。第七十九課  
 も、「イチリンノハナ」を、「リンノハナ」となし之を  
 例として「……………ノハ」とある……………に「マイ」と填字

せしむること、此以下點線あるもの皆同じ、第九  
 十九課の作文欄の如く、圖畫を省けるものあり、  
 この讀方欄の圖畫によりて、填字を爲さしめん  
 とするあり、此他の、皆以上の例を推して辨ふべ  
 し。

總て此掛圖、作文科に於て、書取らしむる事柄ハ、  
 唯兒童の口に發する言語のまゝを書き取らし  
 むる趣向とせり、これハ、語法と文法とハ、元と一  
 致のもの故、初めに言語をよく書き取る脩練を  
 爲し置くときハ、後來稍高尚なる文章を作る基

本となり、其益甚大なればあり。

此掛圖第一課より毎課一字づゝの片假名を増加し、第四十八課までにて之を了り、第四十九課より濁音を一個づゝ加へ、第七十二課までにて了る。但し製圖の都合により、第六十五課のみ「ド」「ビ」の二音を加へたり。第七十三課よりハは「行」の變音を加へ、第七十七課に了り、第七十八課より、數字を加へて八十七課にて了れり。以上にて、片假字濁音は「行」變音を卒れる故、第八十八課と第十九課とに、五十音濁音及數字の三圖を掲げて、

兒童に、これを讀ませ、書取らせむとして、温習するの用に供す。第九十課より、平假名に移り、毎課二字づゝを増加して、第一百三課に至り、第一百四課より、拗音を加へて、第二百二十二課に至る。但し、拗音ハ、其數甚多きを以て、悉く擧ぐるに堪へず。故に、よみかき教授書にハ「ほう」とあれば、此掛圖にハ「どう」「ろう」の如き同韻のものを擧げたり。されば、よみかき教授書、教授の際ハ、次の如き圖を作りて、其唱方を教へ置くべし。

ほう      ふうせん

れう	くう
こう	すう
うう	つう
とう	ゆう
のう	
もう	
よう	
ろう	
をう	

等の如し、但し、此拗音ハ、到底、一時にハ、授け難き

もの故、唯、大凡に爲し置く可し、以上にて、片假字平假字ハ了りたる故、其温習を爲さしむる爲めに、第百二十三課の圖を設けたり。これハ、其圖の各部を書取るるときハ、自ら假字四十八字の含蓄する様にせり。其書取り方ハ、例へば、枯枝の上に、鴉の止まれるを指してハ、

からずガ、かれはだにどまりてゐる。  
 カラスガ、カレエダニトマリテ非ル。

又手桶の底の抜けたるを指してハ、  
 うこのぬけてゐるてをけ。



ソコノヌケテ非ルテヲケ

或ひハ、

ろのてをけハ、ろこがぬけてゐる。

ソノテヲケハ、ソコガヌケテ非ル。

など、兒童の思ふまゝ、を書取らしむるが如し。それより、第二百二十四課より、毎課三字づゝの簡單ある漢字を加へて、第四百四十二課に至る。但し、其漢字ハ、一文段毎に、一字を置き、其一段を、一日に授け去めんとするなり。例へば、第二百二十四課に於て、初段に人、次段に犬、末段に木を置きたる

が如し。最末圖、即ち第四百四十二課に於て、第二百二十三課に、爲まじが如く、圖中の各部を、隨意に、漢字交りに書取らしむれば、自ら、已に知りたる漢字の温習となるべく設けたり。

さて、此掛圖を以て、實際に、教授せんに、先づ、適宜に、各級を合して、教授力を要する科の、同時に、複あつぬ様に工夫して、其時間割を爲すべし。但し、其時間割ハ、級、科及授業時間の多少、生徒の數、教室の都合などにて、其趣を異にせざるを得ぬものなれど、今、假に、一二の例を示すべし。

其表

乙		甲		
生年四第	生年三第	生年二第	生年一第	
算術		讀方		第一時
讀方		作文習字		第二時
作文習字		算術		第三時

乙		甲		
生年四第	生年三第	生年二第	生年一第	
算術		習字		第一時
習字		讀方		第二時
讀方		作文		第三時
作文		算術		第四時

等の如し。此他、猶種々なる割方あるべけれど、そ  
ハ、時宜に應じたる教師の工夫に従ふべし。

已に、時間割定まらば、各科の教授を爲すべし。但し、これとて、必しも一定すべきに非ざれば、唯、假に、其例を示すに過ぎざるのみ。

よみかきの教授ハ、先づ、小學よみかき教授書を披かじめ、其日、授くべき某課の文字を、黒盤上に摘書し、其讀方と、書方とを、簡明に教へて、後、一定の時間、之を習はしめ、此間教師ハ、他級の教授若しくは監督を爲す。其時間の末に於て、其習ひ得たる文字より成れる種々ある詞を綴りて、其讀み方と、書き方との得否を驗み、以て、其課を卒ふ。但し、よみかき教授書の課

ハ、掛圖の課より、一課先きに進むを可とす。例へば、今日、掛圖の第一課を授けんとせば、其前日に於て、よみかき教授書の第一課を授け置くが如し。これ、熟く、掛圖を自讀せしめんとするにハ、よみかき教授書の習熟を大切とするを以て、兒童、自宅の温習に便せんとするなり。讀方科の教授ハ、先づ、掛圖を掲げて、適宜の時間、兒童をして下讀みせしめ、但し黙讀たるべし。其間、教師ハ、他級の教授、若しくは、監督を爲す。次に、一人づゝ、暗指して、數童に、之を讀ましむ。但し、必ず、常話の口調を用ひし

め、以て、夫の厭はしき音節を附することを防ぐべし。次に、掛圖を撤し、又、暗指にて、今讀みたるものハ、如何なることなるかを問ひ試むべし。これ讀みたるものハ、直に、心に記憶する習慣を養ふが爲めなり。次に、再び、掛圖を掲げ、教師、自ら、常語の口調にて朗讀して、後に、此科を卒ふ。これ、兒童の書を讀むに、奇なる音節を用ふるを防ぎ、且つ言語を正しくする習慣を得せしむるに益あればなり。作文科の教授ハ、先づ、掛圖を掲げ、其日書取らしむべき圖畫を示し、若し、兒童の目慣れざ

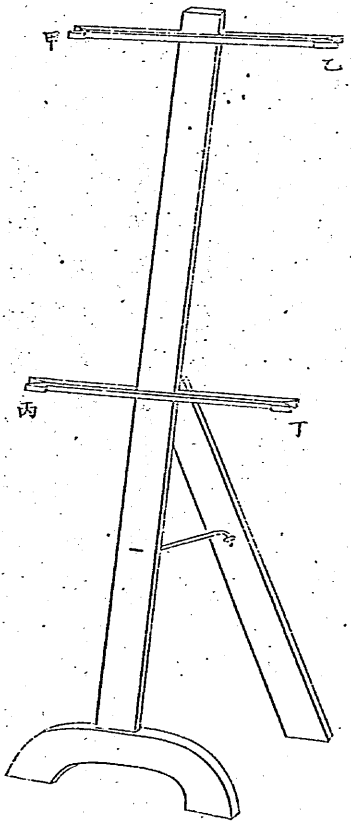
るものなどあらば、これが説明を與へ、隨意に書取らしむべし。但し、作文科の日課ハ、讀方科より、一日後程にならば、最も可かりとす。以上にて、此掛圖の使用法を、稍會得しつべし。今、此結尾に於て、此掛圖を使用する人々に、一言すべきことあり。そハ、元、教授といふハ、殆ど定形なきものにて、教師、自らの性質、兒童の習慣、地方の情況等に隨ひて、其方法同じからざるものなり。されば、此掛圖も、成る可く、種々ある方法に適すべく編製せりと雖も、元より、圖書ハ、死物なれば、

實施上、往々、不利の點あるハ、免かれざる所なる  
べし。仍て、これを用ふる人々ハ、十分に、掛圖の仕  
組を視察し、其實施上、不都合なる點に逢ハ、隨  
て、裨補あらんこと是なり。

附記

此掛圖ハ、毎回、一枚ツ、使用スル趣向ナルヲ以  
テ、其操作ニ便センガ爲メ、特ニ、下圖ノ如キ器ヲ  
製作セリ。ソハ、其器ノ甲乙丙丁ノ部分ニ於テ、彈  
機ヲ設ケ置キ、之ヲ撮ムトキハ、内方開キテ能ク

其使用スベキ掛圖ヲ夾ミ止ムルヲ得ベシ。猶、其  
詳細ハ、實物ニ就キテ一見セバ、容易ニ了解スル  
ヲ得ベク、又、他ニ工夫シテ、適當ノ裝置ヲナスモ  
可ナルベシ。



明治廿二年九月十二日出版

文部省編輯局

(定價金壹錢八厘)

